

# 企業とのコラボレーションによる 森林保全と植林事業



バードライフ・インターナショナル

鈴江恵子

不許複製 All rights reserved.

バードライフ・インターナショナル

# バードライフ・インターナショナルの概要



設立： 1922年

本部： 英国 (ケンブリッジ)

パートナー団体：116団体

メンバー：世界に250万人のネットワーク

名誉総裁：高円宮妃久子殿下

バードライフのロゴマークに使われている「キョクアジサシ」。北極で生まれ、南極に渡り、地球を一周して北極に戻ることから地球環境のシンボルとして選出

## The World's largest alliance of conservation NGOs 120カ国/地域にパートナー団体、250万人のネットワーク

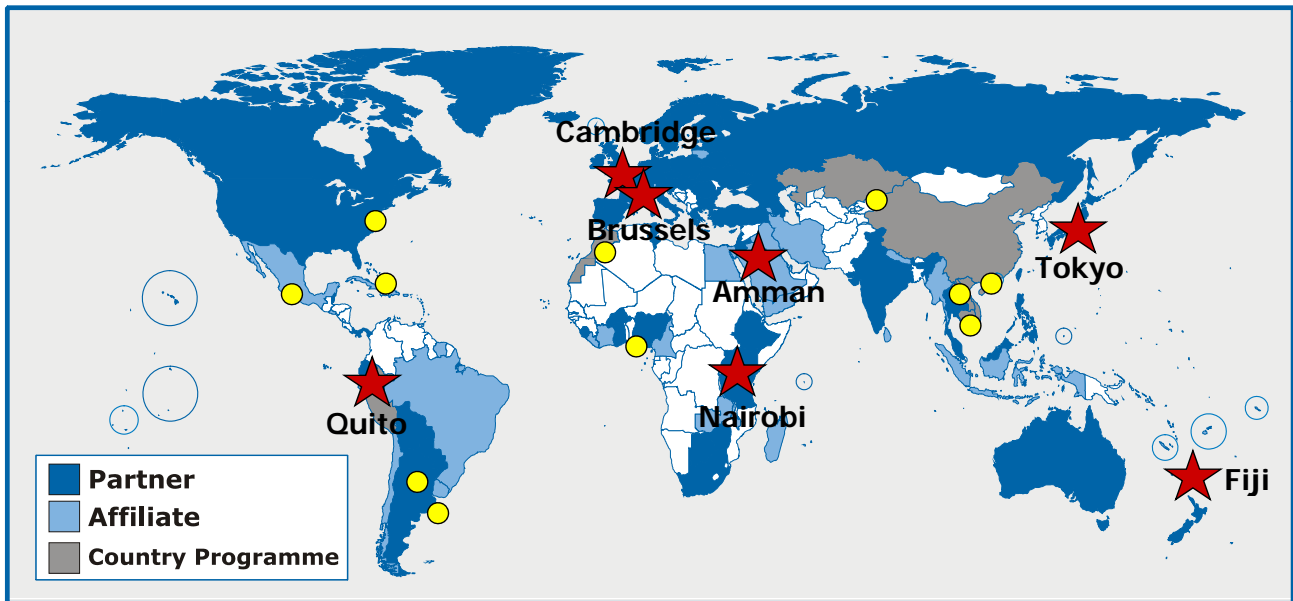


Together we are BirdLife International



# バードライフの地域事務所

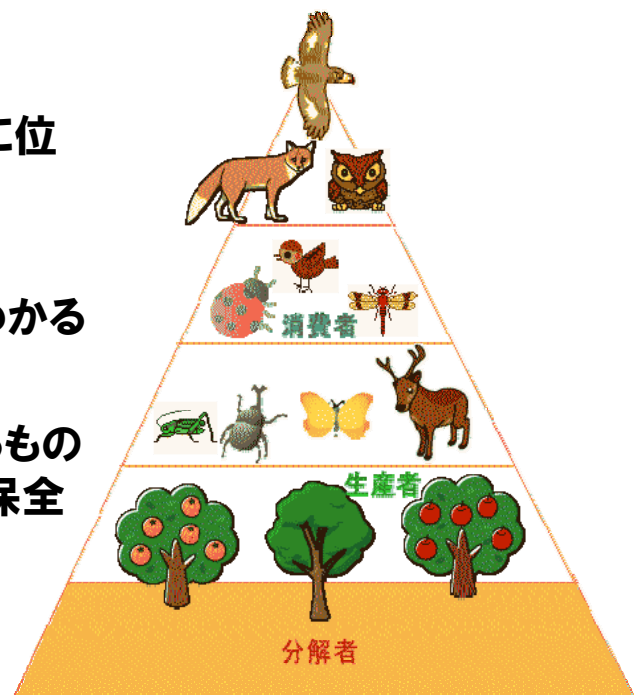
★ 地域事務所 6カ所  
● 直轄事務所



アジアのパートナー団体はインドから台湾まで13カ国に14カ所

## 鳥をシンボルに生物多様性を保全 ～なぜ鳥なのだろうか？

- ・ 鳥は生態系ピラミッドの頂点に位置している
- ↓
- ・ 鳥をみれば生態系の状態がわかる
- ↓
- ・ 鳥を生物多様性保全をはかるものさし(シンボル)に、自然環境保全活動を推進



## 生物多様性の高い場所を守る IBA: Important Bird Areas (重要自然環境)



世界で11,000カ所を選出。ヨーロッパでは保護区選出の基準

## バードライフが森林保全で重視すること

- 森林の生態系を保全すること
- その地域に生息する生き物の多様性を損なわないこと
- その地域に暮らす人々が持続的な生計を営めること
- 生態系の復元のための植林活動であること

# 事例紹介

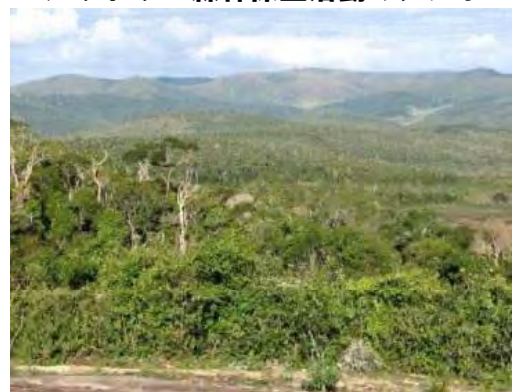
9

## 事例1：リコー株式会社 ブラジル・バイア州 ボアノバ

- 活動地は大西洋岸低地熱帯林
- もともとの7%に減少した森林
- パッチ状に残る小さな森をつなぐ回廊づくり
- 地元の人々が参加し、便益を受けられる地域づくり - 2007年に開始



アリドリ：森林保全活動のシンボル





ボアノバでは森林伐採が進み、はげ山状態<sup>11</sup>

5

## 森林減少の脅威はマキの過剰利用

調理にはマキを利用



保護区の木でも平気で伐採



Cipoの森から大量に伐採される薪用木<sup>12</sup>

## 5年間の活動の成果

事業開始3年で国立公園に制定  
河川域で、土壌を安定させるための植林を開始  
薪として利用する早成樹を植林

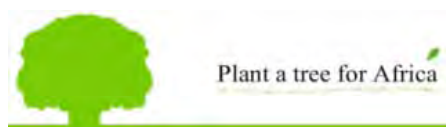


mata-de-cipoの森にみられる大型のヤナナス類。  
草地と森林の境界に多くみられる。



永久保護地域での森復元作業

## 事例2：リコー株式会社 アフリカ・ブルキナファソ



全英リコー女子オープンゴルフ  
のチャリティー活動

「Plant a tree for Africa」

バーディーやイーグルなど

優れたショットの数に応じた植樹

2010年：7,847本

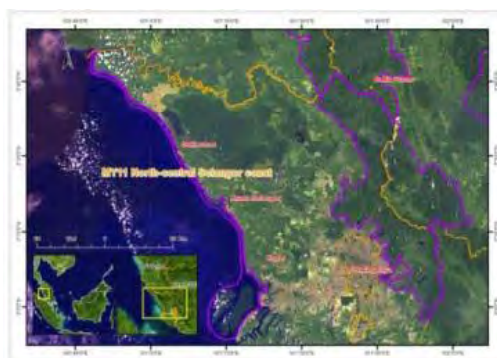
2011年：8,306本

- 事業活動地はラムサール条約の登録地
- 乾燥化が進み緑化が求められている
- 村人が参加して植樹を実施



## 事例3：リコー株式会社 マレーシア・セランゴール

- マレーシア北中央沿岸域におけるマングローブの復元事業
- 一帯は自然公園に指定される生物多様性の高い場所
- マングローブの植林により、多くの生き物の生息環境を回復させる
- 2011年より開始





- マレーシア半島は南北に長く、マングローブ林はマレーシアの典型的な森林生態系であった。
- おもに半島西海岸のサラワク州と、ボルネオ島北西部のサバ州に多くみられる
- 活動地のセラゴールは半島第3番目の規模で、州面積の2.3%を占める



17

- マレーシアのパートナー団Malaysia Nature Societyが州政府より委託を受け、公園の管理を行っている
- MMSは湿地の生態系を復元向上させる一環としてマングローブの植林を実施している
- 渡り鳥の飛来数も増え、数年後にはラムサール条約への登録が検討されている
- 市民を巻き込む環境教育にも熱心に取り組んでいる



## 事例4：緑の募金 フィリピン・ミンドロ島

- ・ 住民参加型の熱帯林復元事業
  - 事業実施:2009～2010年
  - 3集落10haに、2万5,000本を植林
- ・ 300名が参加



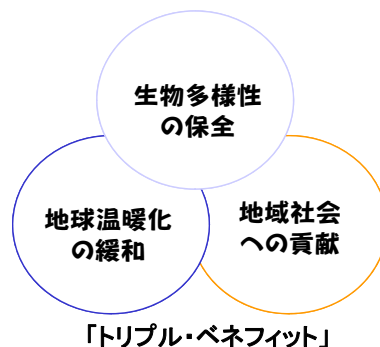
- ・ 共同の苗床とあわせ、ホームガーデンで苗木づくりと野菜や果物を栽培
- ・ 果物や野菜は自家使用し、余剰分をマーケットで販売
- ・ 苗木は国や地方行政の植林事業に提供



# 事例5：Value Frontier フィリピン・ミンドロ/ルソン島

## 1ha単位、1本から参加できる熱帯雨林再生・復元事業 フォレストーリー（2008年-）

- ・ 熱帯雨林の伐採跡地に植林し森を復元
- ・ 生物の多様性保全、地域社会への貢献、温暖化防止に貢献する、トリプル・ベネフィット活動



## Forestry事業の特徴

### (1) 3つの特徴

- 環境や生態系の保全
- 地球温暖化の防止
- 地域社会へのメリット

### (2) コミュニティ基金

- 協賛・寄付金の10%がコミュニティ基金として、地域の人々の生活向上のために使われる



日本で企画運営

+



フィリピンで事業を実施



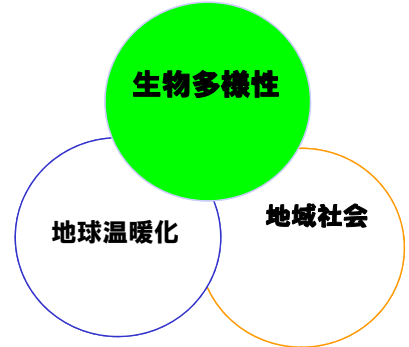
側面サポート

# 環境や生態系の保全

## ・地域の樹種を使う



コミュニティの苗床

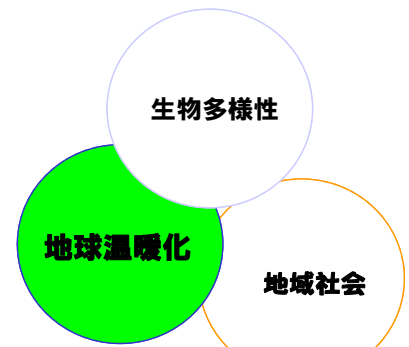


### 3つの特徴



# 地球温暖化の防止

- ・ 木はCO<sub>2</sub>を吸収する
- ・ 1本あたりの吸収量を計算
- ・ 植林証明書に記載



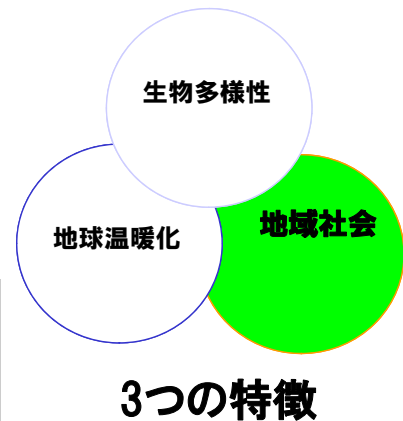
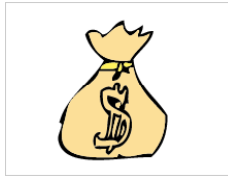
### 3つの特徴

# 地域の人々の生活向上を支援

## • コミュニティ基金



寄付金の10%  
をプールしておく



## 参加企業

マイクロソフト  
楽天

NTTコムウェア株式会社  
エナジー・ワン株式会社

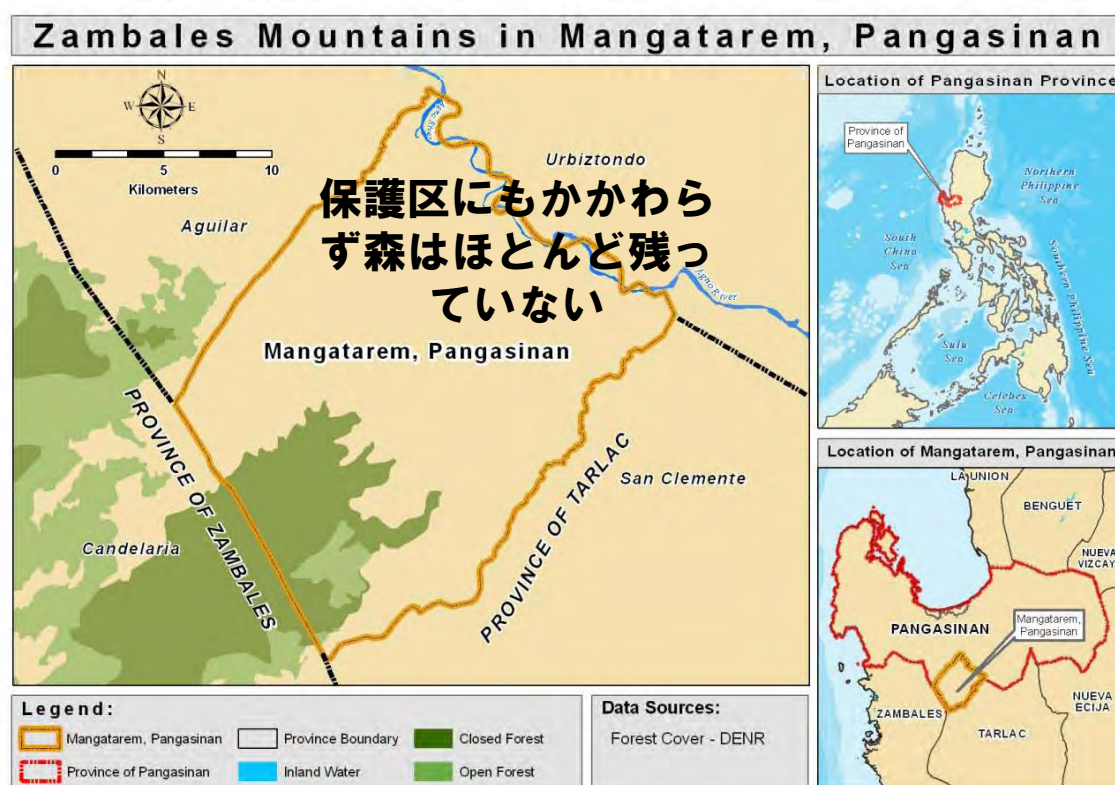
シャディ株式会社  
団体、個人など

# 事例6：トヨタ フィリピン・ルソン島

- 生活に密着した森林保全への意識の向上と、地元行政の森林管理能力の強化により森林伐採を防止し、植林活動を実施する。
- 2011年1月～12月



## 活動地はルソン島の西部



# 生計向上のための活動

- ・ 植林技術の研修と実施
- ・ 微生物を利用した堆肥作り
- ・ アグロフォレストリーの推奨
- ・ 米の収量増加の指導
- ・ 有機肥料による家庭菜園づくり



# 教育啓発のための活動

- ・ 392人(男性262人, 女性127人)に対し、オリエンテーションを実施



コミュニティの利害関係者と生物多様性の保全について討議

# 活動の意義を紹介

- 13の学校や、地方自治体の事務所で、国際森林年のパネル展示会を開催し、30,000人以上が参加



## 事例7：トヨタ ベトナム・クアンチ省ダクロン郡

- ダクロンの森林地域で、アグロフォレストリーの手法を用い、地域住民が資源を持続的に利用して森と共存できるしくみを開発する
- 換金作物としてラタンを植林する
- ハチミツやヤシの葉の利用など非木材資源を持続的に利用する





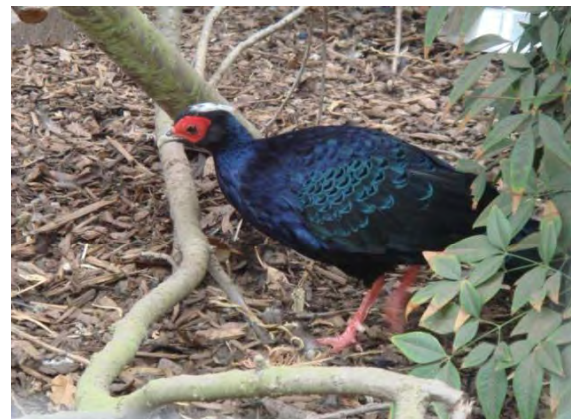
# 活動地は旧南北ベトナムの境界



- 大量の枯葉剤が散布された
- 30年以上が経過しても、植生復元がみられない
- 先住民の入植を奨励



- 左上:先住民が入植し、外国の援助でコーヒーなどを栽培
- 左下:紙パルプ用のアカシアではなく、在来のラタン等を植林
- 右下:固有種をシンボルにエコツーリズムを企画



**植林からエコシステムの復元に！**

**Forests of Hope**

35

**The Forest of Hope**

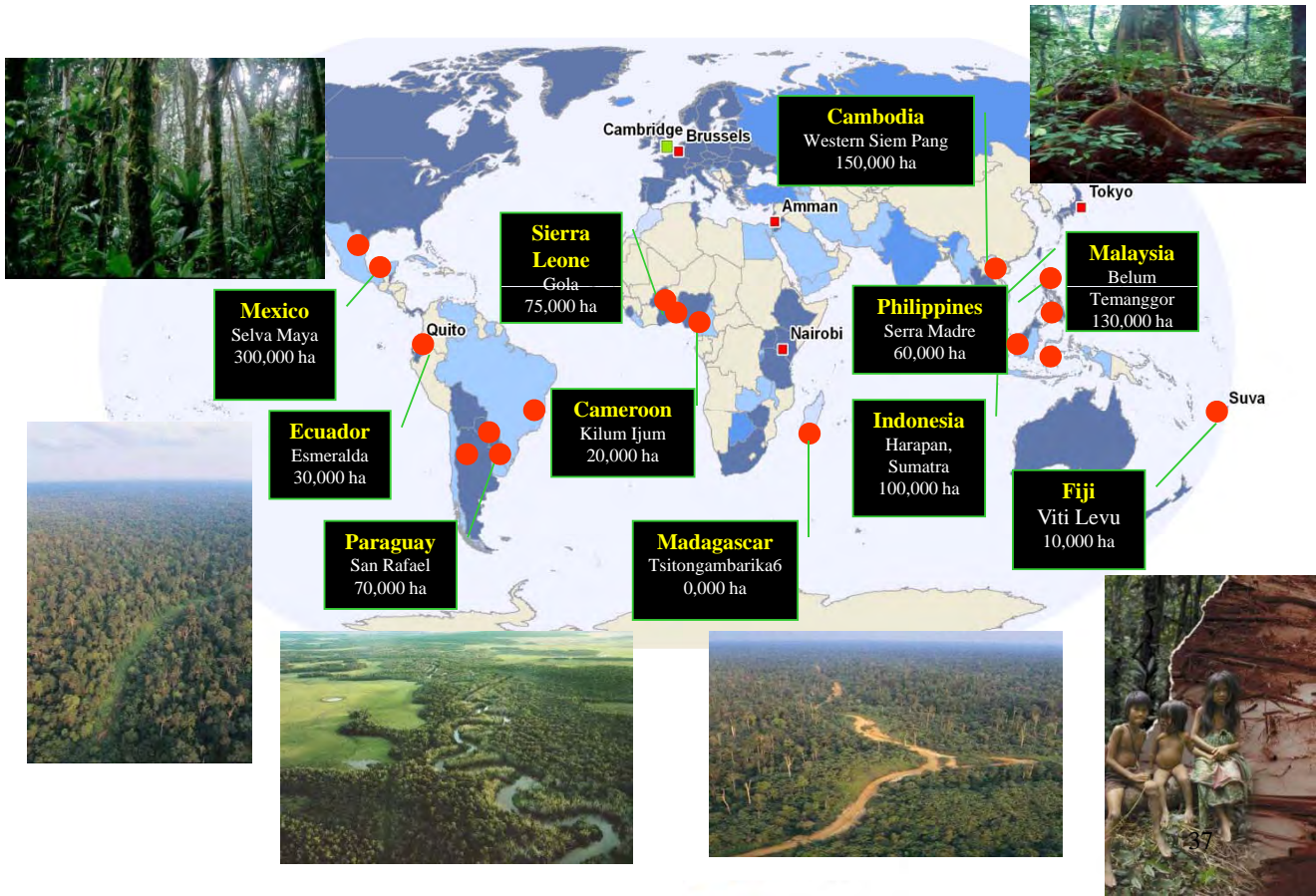


**森林再生による  
生物多様性保全  
と温暖化防止**

**For our Forests, For our Climate**

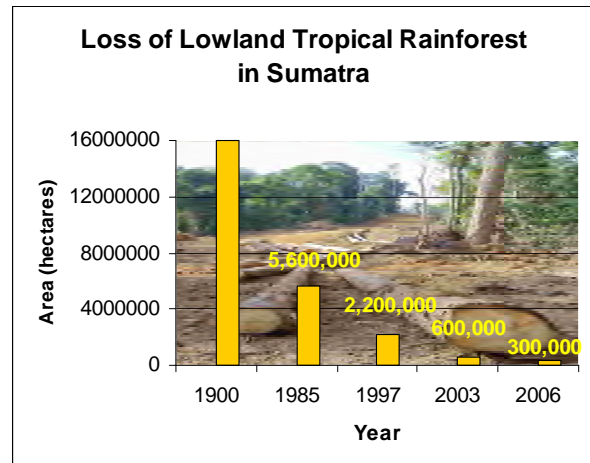
36

# 残っている世界の熱帯雨林を保全し、生態系を復元する



## インドネシアスマトラ島では…

- 熱帯雨林は100年の間にほとんど消滅
- 活動地は、スマトラ島中部のジャンビ10万ヘクタールの森



# ハラパンの森で見られる生き物は多様

鳥類:293、植物:159、動物:55



放火による減少は深刻

8 13:50

# 熱帯雨林はアブラヤシのプランテーション に変わっている

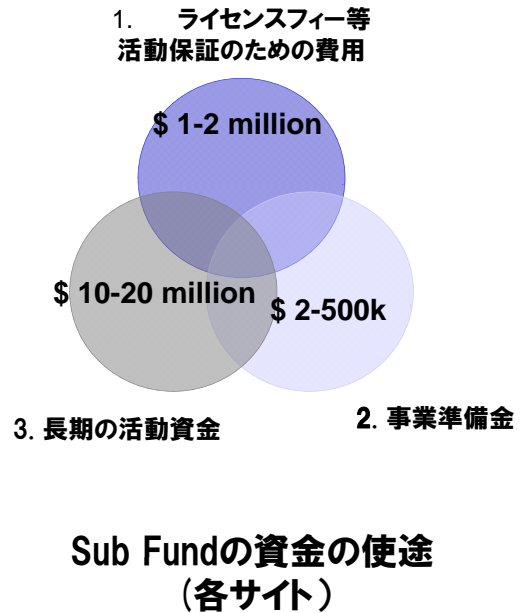
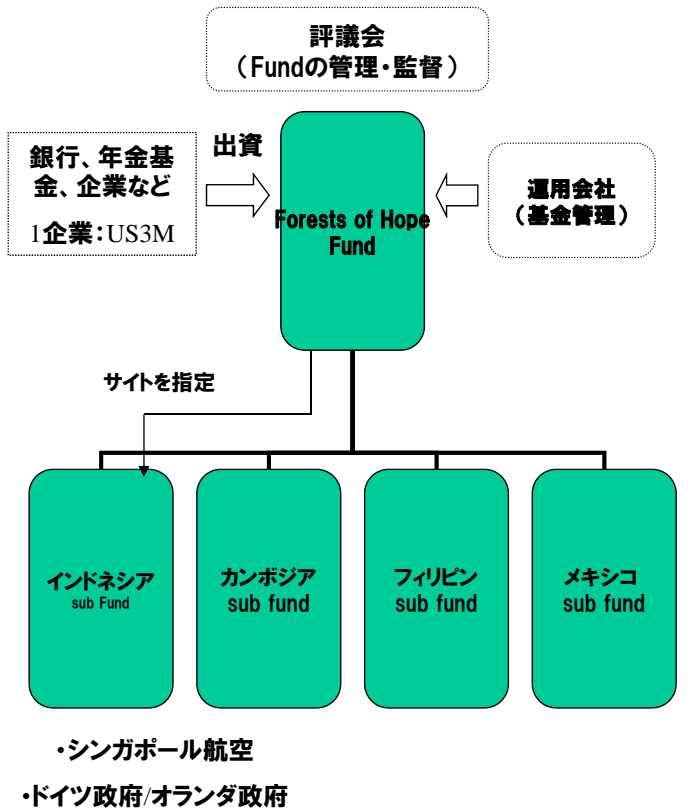


道路の右がハラパンの森  
左はアブラヤシのプランテーション

41



# Forests of Hope 基金のしくみ



## 企業にとっての投資メリット

企業の出資 → 森林資源の保全 → カーボンクレジットの創出

- ・生物多様性の保全
- ・気候変動緩和への貢献

PES, 生物多様性オフセット等の機会

事業中止の場合  
元金を返済



ローリスク

新たなマーケティング  
と広報の機会

CESR (Corporate Environmental Social Responsibility)

REDDカーボンクレジット発効時に出資金をクレジットで受け取る権利の確保

## 初の企業スポンサーはシンガポール航空 300万ドルの拠出の覚書調印式（2011年）

